

関西医科大学 広報



応募作品全65点の中から、最優秀である「理事長賞」に選ばれた作品です(撮影:上田憲一 医学部6年)。

創立90周年記念フォトコンテスト 理事長賞受賞作品「秋郊^{しゅうこう}」

Vol.43

CONTENTS

法人：看護学部・大学院看護学研究科
新設記念講演会 P.3

法人：枚方産学公連携プラットフォーム
キックオフイベント P.6

大学：山中伸弥客員教授講義実施 P.9

病院：DMAT出動 P.14

病院：関医デイケアセンター・くずは
夏祭り P.16

附属看護専門学校：学校祭・球技大会 P.17

附属病院整形外科理事長特命教授に就任して

附属病院整形外科理事長特命教授 堀井 恵美子



2018年9月1日付で整形外科理事長特命教授を拝命いたしました。同門の皆様には“初めまして”というご挨拶になります。私は1979年に京都府立医大を卒業後、名古屋大学整形外科教室に入局して研修を始めました。当時は、女性整形外科医は皆無の時代で、何をすることも色々苦労がついて回りました。整形外科の中でも手外科を専門分野として研究をはじめ、手関節外科に興味を抱いて1989年Mayo Clinic (U.S.A) Biomechanics Lab.に留学しました。これをきっかけに、多くの師・友人に恵まれ、学問だけでなく幅広い勉強をさせていただき、その時に得た人脈はいまだに私の支えとなっています。その後は小児先天異常・外傷の治療が専門分野のひとつとなり、他科の先生方との協力を得て、小児病院まで活動範囲を拡大してきました。

関西医大整形外科二代教授の小川亮恵先生に、手外科の中でも特にリウマチに関してご指導いただいたことが記憶にあります。卒業以来関西とは縁がなく過ごしてまいりました。昨年、齋藤教授が就任されて、関西医大整

形外科をより強靱に、特に救急外傷部門の充実を図りたいという熱い想いに突き動かされ、名古屋からやってまいりました。大学という組織を離れて、この12年余りは日赤病院で臨床主体の活動をしてきましたので、新しい環境に慣れるのに少々時間がかかるとは思います。また、猪突猛進で頑張っていました。電車で席を譲られることもある年齢になりました。関西医大の将来を担っていく若い先生方の指導に全力を尽くし、教室員の皆様とともに、関西医大の成長にお役に立てるよう頑張っています。ご指導をよろしくお願い申し上げます。

略歴

1974年 3月	京都府立医科大学卒業
1980年 4月	名古屋大学整形外科入局
1983年 9月	蒲郡市民病院勤務
1986年 1月	名古屋大学医学部附属病院分院勤務
1989年 1月	Mayo Clinic Biomechanics Laboratory Research Fellow
1991年 1月	名古屋大学医学部附属病院分院医員
1996年12月	名古屋大学医学部附属病院整形外科医員
1998年 4月	名古屋大学医学部附属病院整形外科講師
2001年 4月	名古屋大学大学院大学機能再建外科手外科講師
2006年 4月	名古屋大学大学院大学機能再建外科整形外科助教授
2006年 9月	名古屋第一赤十字病院整形外科手外科部長
2017年 4月	名古屋第一赤十字病院整形外科部長
2018年 9月	関西医科大学理事長特命教授

外科学講座肝臓外科担当診療教授に就任して

外科学講座肝臓外科担当診療教授 海堀 昌樹



2018年8月1日付けで、外科学講座肝臓外科担当診療教授を拝命致しました。ご推挙いただきました多くの先生方に心より御礼申し上げます。またこれまでご指導、ご支援賜りました関西医科大学各位の皆様へ厚く御礼申し上げます。私は、1991年に本学を卒業し、同外科学講座ならびに関連病院において外科学全般にわたる修練を行い、1997年に京都大学移植外科で生体肝移植術を学びました。2002年より当院初の生体肝移植手術を開始し、2010年までに総数29例の移植手術を行ってまいりました。現在では安全丁寧な合併症を起こさない細心の手術を行うことをポリシーとして年間100例以上の原発性肝細胞癌、転移性肝癌、胆管癌などの肝切除術を指導医および執刀医として担当しております。今後さらに「手術手技的確さ」、「手術進行の円滑さ」、「術野の完成度」を肝に銘じ手術手技を精進していく所存です。

研究面におきましては、病態の原因解明のための基礎研究に始まり、新しい手術術式の開発、術後合併症克服の工夫、新しい医療機器開発のトランスレーショナルリサーチが外科学の発展のためには必須のものと認識し、実践してまいりました。基礎と臨床ともに興味のある外

科研究者の育成を目標とし、今後も大学院生や研究生を数多く指導していきたいと考えております。また私が関与しております文部科学省科学研究、厚生労働科学研究、日本医療研究開発機構、寄附講座での研究を今後もさらに発展させていきたいと考えております。

これまで諸先輩が築き上げてこられました、関西医科大学の学内外での肝臓外科診療の信頼をさらに強固なものにするとともに、若手外科医の育成へも力を注いでいきたいと考えております。関係各位におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしく御願ひ申し上げます。

略歴

1991年 3月	関西医科大学卒業
1991年 6月	関西医科大学外科研修医
1997年 3月	関西医科大学大学院医学研究科博士課程修了
1997年 4月	京都大学医学部移植外科国内留学
2001年 4月	関西医科大学外科学第一講座助手
2009年 4月	関西医科大学外科学講座講師
2013年 4月	関西医科大学外科学講座准教授
2014年 4月	関西医科大学教務委員会委員
2015年 4月	関西医科大学次世代低侵襲外科治療学講座(寄附講座)併任准教授
2015年 4月	関西医科大学臨床研究支援センター副センター長
2015年12月	関西医科大学附属枚方病院がんセンター研究部門部門長
2016年10月	千葉大学フロンティア医工学センター特別研究准教授
2018年 8月	関西医科大学外科学講座肝臓外科担当診療教授

外科学講座胆膵外科担当診療教授に就任して

外科学講座胆膵外科担当診療教授 里井 壯平



2018年8月1日付で、外科学講座胆膵外科担当診療教授を拝命いたしました。関西医科大学(以下、本学と略)を卒業後、一般外科研修・大学院課程を修了し、英・仏・独国で計1年半の間、肝胆膵・移植外科の臨床ならびに研究に従事しました。本学へ帰学後は、主に胆膵外科医として積極的に臨床研究を主導し、術式および周術期管理の標準化・後進の育成に努めてまいりました。2005年までは年間30-50件の胆膵外科手術が、2006年以降は年間150-170件に増加し、現在の手術件数とその成績は本邦において有数の施設となっています。また、難治癌である膵癌において、完治を目指すべく平成12年より世界に先駆けて集学的治療を導入してきました。中でも極めて予後不良で癌随伴症状が高率に出現し、有効な治療法のない腹膜転移膵癌に対して、抗癌剤の腹腔内投与を行うレジメンを導入し、良好な成績を収めました(先進医療Bに承認(2017年(先-269)第3号))。他にも、胆膵領域疾患は緊急対応を要することが多く、当院での緊急診療体制の整備、地域連携の確立、後送病院の

確保を行うことで、患者さんとその家族にとって安心・安全で、満足度の高い診療が受けられる体制を構築しております。

これからも、胆膵外科はチーム医療をモットーとして難治疾患に取り組み、国内のみならず欧米・アジア各国とも連携し治療の標準化を追求すると共に、高度外科医療(低侵襲ならびに高難度手術)を実践してまいります。微力ながら、胆膵外科、外科学講座、本学附属病院ならびに本学のますますの発展に寄与して参りたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

略 歴

1991年 3月	関西医科大学卒業
1991年 5月	関西医科大学附属病院外科医員
1994年 4月	八尾徳洲会総合病院外科医員
1999年 4月	英国パーミンガム大学肝胆膵・移植外科臨床研究員
2000年 4月	仏国リヨン赤十字病院一般・肝移植外科臨床研究員
2000年 5月	独国レーバークーセン総合病院一般外科臨床研究員
2000年 8月	独国ハンブルグ大学肝胆膵外科臨床研究員
2000年10月	関西医科大学外科学第一講座研究医員
2001年 1月	関西医科大学外科学第一講座助手
2003年 4月	関西医科大学外科学講座助手
2009年 4月	関西医科大学外科学講座講師
2013年 4月	関西医科大学外科学講座准教授
2013年 5月	東京医科大学消化器・小児外科学講座客員准教授
2015年 8月	東京医科大学消化器・小児外科学講座客員教授
2018年 8月	関西医科大学外科学講座胆膵外科担当診療教授

外科学講座乳腺外科担当診療教授に就任して

外科学講座乳腺外科担当診療教授 山本 大悟



2018年8月1日付で外科学講座乳腺外科担当診療教授を拝命しました。これまで関西医大で研鑽を積んで参りました臨床の知識や技術を後進に伝え発展させていくと共に、研究面でも新たな発展を目指したいと考えております。

私は1993年に順天堂大学医学部を卒業し、関西医科大学附属旧滝井病院外科学第二講座に入局。2002年に英国(Nottingham City Hospital)に留学しました。英国医師免許(GMC)取得した後、Johon Robetrson教授とともに臨床研究を行いました。帰国後、さらに継続した臨床研究と基礎研究に励み、さらに形成外科田中先生とともに自家組織による乳房再建を開始しました。その後、乳房インプラントが保険償還されてからより幅の広い乳房再建ができるようになりましたが、未だ解

決すべき問題点が数多く残されております。さらに、乳癌領域は診断分野でも様々な新しいデバイスが出てくるのが予想され、飛躍的に発展する分野と考えております。また、研究では大学院生とともに遺伝子をふくめたトランスレーショナルリサーチを積極的に取り組んでおり、臨床、研究、教育の全てに力を注ぎ、関西医科大学の発展に貢献できるよう努力したいと思っております。

今後ともご指導、ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

略 歴

1993年 3月	順天堂大学卒業
1993年 5月	関西医科大学附属病院外科学第二講座入局
2000年11月	関西医科大学外科学第二講座助手
2002年 4月	英国留学 Nottingham City Hospital 英国医師免許(GMC)取得し臨床研究
2006年 1月	関西医科大学附属病院外科助教
2012年10月	関西医科大学外科学講座講師
2013年11月	関西医科大学外科学講座准教授
2015年11月	関西医科大学総合医療センター乳腺外科病院教授
2018年 8月	関西医科大学外科学講座乳腺外科担当診療教授

看護学部・大学院看護学研究科新設記念講演会の開催

9月16日(日)13時30分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、「関西医科大学看護学部・大学院看護学研究科新設記念講演会」が開催されました。これは今年4月、本学に看護学部と大学院看護学研究科が新設されたことを記念して企画されたもので、看護学分野での教育・研究において優れた業績を残している高知県立大学法人高知県立大学南裕子名誉教授(本学評議員)を講師として招聘しました。看護系大学の教職員や病院に勤務する看護職者、本学看護学部学生・大学院生、教職員など、218名が参加しました。

冒頭、本学看護学部・大学院看護学研究科片田範子学部長・研究科長が挨拶を述べた後、同加藤令子教授が南名誉教授を紹介。登壇した南名誉教授は「チャレンジャーが育つ教育へ」をテーマに講演しました。その中で看護の変遷と我が国における看護学教育の変遷を紐解きながら、様々な課題に取り組むチャレンジャーをどうやっ

て育てるべきか、ていねいに情勢をもって話しました。

最後に林優子教授が南名誉教授へ花束を贈呈し、看護学部近藤麻理教授が閉会の挨拶を述べて講演会は幕を下ろしました。



講演で看護の展望を熱く語る高知県立大学南名誉教授

文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム

災害医療のメディカルディレクター養成

本学救急医学講座の取り組み

本学救急医学講座(鉾方安行教授)では2014年度、文部科学省主催の課題解決型高度医療人材養成プログラムに近畿大学を申請担当大学とし、京都大学・大阪市立大学・旭川医科大学の合計5大学による共同事業として「災害医療のメディカルディレクター養成」を申請し、採択されました。

これは、我が国における災害医療において中心的な役割を果たすことが可能な人材育成を目的とし、混乱状況下でも的確に医療ニーズを把握して最適な医療資源配分や環境整備をコントロールできる“メディカルディレクター”の養成を目指したプログラムです。

そのため、従来は短期集中型で行われがちだった災害医療訓練を定期化・長期化したり、国内に限らず近隣諸国の関係組織とも連携・連動することでノウハウを共有したり、災害医療ボランティアの育成も行ったりと、今までの教育プログラムにはない特徴を備えています。2014年の採択後は、実態調査や学会発表、評価システムの開発、医薬連携合同授業の開講、ワークショップ実施、教材開発からメディカルラリー(災害を想定した模擬傷病者に対する活動をポイント化し、チームごとに競うイベント)の参加まで、継続的に活動しています。

本プログラムは今年度で国からの財政支援は終了しますが、本学はこれからも今後起こりうる大災害に対する

備えとして、災害医療におけるメディカルディレクターの養成に取り組み続けます。

■ 鉾方教授コメント

災害が発生したときに、医療ニーズを把握して診療の中心となって活躍し、地域に貢献できる人材を育成することは、大学にとっての責務です。実際に今年は、地震や台風による被災を大阪も経験することとなり、より深刻な災害がいつ襲ってくるかわからないと体感できました。本プログラムで得たことを今後も引き続き活用して、人材育成ならびに災害に対する備えを一層充実させてまいります。



平成29年度大規模地震時医療活動訓練時の様子

関西医科大学創立90周年記念事業募金のご案内

創立90周年記念事業募金の第2期を鋭意推進中です。本学の未来のため、学生の学びのために、皆様のご協力をお願い申し上げます。

【募集要項】

1. 募集対象

同窓会会員、本学学生の保護者、教職員、本学関連の個人および法人

なお、同窓会会員には牧野講堂(武道館)建設募金といたします。

2. 募集金額

1口10万円、申込口数1口以上。

多数口のご協力をお願い申し上げます。1口未満もありがたくお受けいたします。

3. 申込方法

寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印のうえ、返信用封筒にてお申し込みください。

寄付申込書は右記の3種類をご用意しておりますので、いずれかをご提出ください。

・個人の場合：特定公益増進法人申込書(個人用)

・法人の場合：受配者指定寄付金申込書

特定公益増進法人申込書(法人用)

4. 払込方法

一括払込と分割払込の2種類があります。

5. お問い合わせ先

関西医科大学法人事務局募金室

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344

メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp

URL：http://www.kmu.ac.jp/donation/index.html

なお、この募金の応募は任意です。

【税制上の優遇措置】

平成30年1月1日から平成30年12月31日までにご寄付をいただきますと、平成30年分の確定申告の際に手続きを行うことで税の還付が受けられます。

最大40%が減額されます

●個人の場合

■所得税(どちらか一方の制度を選択)

(A)所得控除(「寄附金控除」)

寄付金額から2千円を差引いた金額を所得金額から控除できます。所得控除を行なった後に税率を掛けるため、所得税率が高い高所得者の方に減税効果が高くなります。※寄付金額は総所得金額等の40%が限度となります。

(B)税額控除(「公益社団法人等寄附金特別控除」)

寄付金額から2千円を引いた額の40%が税額控除の対象額となります。税率に関係なく、税額から直接控除するため、小口の寄付に減税効果が高くなります。

■住民税

お住まいの市町村の条例により個人住民税において寄付金税額控除の対象となることがあります。詳しくはお住まいの市町村の住民税担当課にお問い合わせください。

●法人の場合

受配者指定寄付金制度を利用することで寄付金全額が損金算入されます

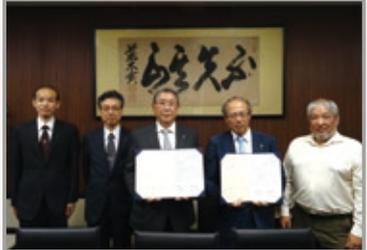
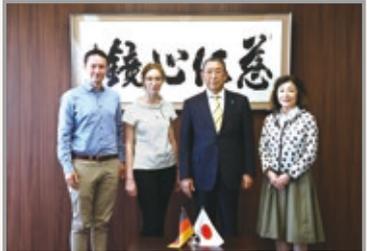
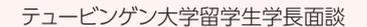
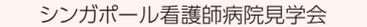
ご寄付をいただいた方(個人)には、確定申告について平成31年1月頃に本学募金室から詳しいご案内を郵送いたします。

創立90周年記念事業募金として平成30年7月1日から平成30年9月30日までにご寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。なお、募集当初から平成30年9月30日までの寄付金累計額は3億6,637万8,460円です。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。



今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	8月3日	枚方産官学連携プラットフォームキックオフイベント	
	8月27日	創立90周年記念フォトコンテスト授賞式	
	8月30日	京都大学とのゲノム共同研究協定書調印式	
	9月7日・8日	新任管理職研修	
	9月12日・20日・22日	新任係長研修	
	9月16日	看護学部・大学院看護学研究科新設記念講演会	
	9月29日	4大学合同入試説明会(枚方学術プラットフォーム)	
	10月1日	事務職内定式	
大学	6月26日	山中伸弥客員教授講義	
	7月6日	大阪府警察感謝状贈呈式	
	7月14日	医学教育ワークショップ	
	7月28日	看護学部オープンキャンパス	
	8月4日	医学部オープンキャンパス	
	8月6日～16日	EPAベトナム人看護師候補者への看護専門講義	
	8月18日	健康沿線 [®] トークカフェ	
	8月20日	国外臨床実習説明会	
	8月20日	学長賞授与式	
	8月21日	クリニカル・クラークシップ中間検討会	
	8月31日・9月1日	大学院選択必修コースリトリート合宿	
	9月8日・9日	研究医養成コースコンソーシアム合宿	
	9月10日	パーモント大学准教授来日	
	9月11日	静岡県医学修学研修資金利用者意見交換会	
	9月11日	学生からの教育評価に基づく教員の表彰式	
	9月12日	チュービンゲン大学留学生フェアウェルパーティー	
9月21日	解剖体慰霊碑供養		
9月25日	大学院学位記授与式		
病院	8月4日	DMAT訓練	
附属病院	7月2日	ハイブリッド手術室内覧会	
	7月6日	関西医科大学先端がん医療セミナー	
	7月26日	無痛分娩講習会	
	7月27日	看護部一日看護体験	
	7月29日	災害訓練	
	8月22日	子ども病棟夏祭り	
	9月1日	地域事例検討会	
	9月14日	シンガポール看護師病院見学会	
	9月15日	市民公開講座	
	9月28日	EPA看護師候補者医療施設見学会	
香里病院	7月21日	サマーコンサート	
くずは病院	7月20日・21日	関医デイケアセンター・くずは夏祭り	
附属看護専門学校	9月21日・9月29日	学校祭・球技大会	
卒後臨床研修センター	7月1日	レジナビフェア2018in大阪出展	
	7月3日	看護管理者研修	
	7月7日・14日	実地指導者研修	
	7月27日	平成31年度初期臨床研修医採用試験(第1回)	
	8月3日	平成31年度初期臨床研修医採用試験(第2回)	
	9月1日	平成31年度専攻医(後期修研医)研修説明会(第2回)	

京都大学とのゲノム共同研究協定書調印式

新任係長研修

チュービンゲン大学留学生学長面談

無痛分娩講習会

シンガポール看護師病院見学会



枚方産学公連携プラットフォームキックオフイベント

9月25日(火) 11時から大阪歯科大学楠葉キャンパス(枚方市)において枚方産学公連携プラットフォームキックオフイベントが開催され、関係者と一般参加者あわせて60名が参加しました。これは枚方市内の私立4大学(本学、摂南大学、大阪工業大学、大阪歯科大学)と枚方市および北大阪商工会議所、資生堂ジャパン株式会社が参画し、高等教育の活性化と地域発展を実現させ、『教育と研究のまち』にふさわしいまちづくりを目指していくための活動。キックオフイベントとなる今回は、摂南大学八木紀一郎学長、大阪工業大学西村泰志学長、大阪歯科大学川添堯彬学長、本学友田幸一学長、枚方市伏見隆市長、北大阪商工会議所北本明会頭参画機関代表者からの挨拶ののち、連携大学代表の摂南大学から活動内容などの説明があり、最後に資生堂ジャパン株式会社近畿支

社美容サポート部村松麻由美部長による基調講演「資生堂ライフクオリティ活動」が行われ好評裏に閉幕しました。



挨拶を述べる友田学長

枚方市内4大学が合同でイベント開催

9月29日(土) 10時30分から枚方市立メセナひらかた会館(枚方市)多目的ホールにおいて、枚方学術プラットフォーム主催「こども夢発見 大学と遊ぼう!」、同日13時30分から「枚方4大学合同入試説明会」が、それぞれ開催されました。これは、8月3日(金)に締結式が行われた枚方産学公連携プラットフォームに基づくイベントで、枚方市内にある本学と大阪工業大学、大阪歯科大学、摂南大学が連携して開催したものです。

当日は両イベントとも4大学が協力して実施し、入試説明会では医学や看護学だけでなく、歯学、薬学、情報工学など分野の異なる大学の入試情報が一度に聞けるとあって、詰めかけた来場者は各大学のブースを訪問して熱心に耳を傾け、積極的に質問していました。



本学が出展したブースの様子

2019年度入職予定者内定式挙行

10月1日(月) 14時から枚方学舎医学部棟4階中会議室において、神崎秀陽常務理事が臨席して「2019年度入職予定者(事務員)内定式」が挙行されました。この日は2019年度入職予定の事務員内定者13名が出席。神崎常務理事による挨拶の後、内定証書が内定者一人ひとりに手渡されました。また、内定者は自己紹介を兼ねて入職後の決意を表明。社会に踏み出す不安と期待の中、関西医大で働くことについて自身の思いを語りました。

内定式終了後は、本学と医療業界に関するオリエンテーションを経て、同4階カフェテリアにおいて内定者懇親会を開催。先輩職員も出席し、多いに盛り上がりました。



内定者集合写真

大阪府警察本部本部長から、本学及び法医学講座へ感謝状

7月6日(金) 11時から枚方学舎13階応接室において、本学及び法医学講座に対する大阪府警察本部廣田耕一本部長からの感謝状贈呈式が執り行われました。これは、大阪府から本学に委嘱されている司法解剖や調査法解剖などへの、48年間に及ぶ本学の協力について感謝の意を表するとともに、これを顕彰するためのものです。

この日は大阪府警察本部刑事部検視調査課課長甲斐俊也警視と同課検視総括係山本正裕警部補が来学し、法医学講座赤根敦教授が同席する中、山下敏夫理事長に感謝状を手渡しました。



記念撮影に収まる山下理事長(中央)、赤根教授(右)、甲斐警視(左)

EPAベトナム人看護師候補者への看護専門講義を実施

8月6日(月)～16日(木)にかけて、看護学部近藤麻理教授が、ベトナム(ハノイ市)での「平成29年度経済連携協定(EPA)に基づく第6陣ベトナム人看護師・介護福祉候補者に対する訪日前日本語研修事業」において、看護専門講義および技術演習を行いました。

◎近藤教授コメント

講義では、文化の差異を考慮したうえで、日本の看護師の業務や看護倫理、チーム医療と地域包括ケアなど、ベトナムとは異なる点を中心に指導しました。演習では、すでに臨床経験2年以上の看護師のプライドを尊重し、実践技術を確認していきました。

毎年、日本の医療現場で働くEPA看護師候補者は増加しており、日本における医療のグローバル化が加速していると感じています。



現地での講義の様子

静岡県医学修学研修資金(地域枠)に関する意見交換会

9月11日(火) 11時30分から16時40分まで、枚方学舎医学部棟会議室他において静岡県地域枠に係る意見交換会が開催され、静岡県の鶴田憲一県理事や静岡県健康福祉部の職員が来学しました。開催目的は、静岡県地域枠で入学した学生に県内の医療情報などを提供して、将来の県内勤務に向けた意識付けを強化し、地域医療に貢献する医師育成の協力体制を静岡県と本学関係者との間で共有するためです。

初めに友田幸一学長、入試センター中川淳センター長、静岡県県人会教員、鶴田県理事、静岡県健康福祉部職員との間で、活発な意見交換が行われました。続いて鶴田県理事による学生講義の後、今後の地域枠運用などについて事務担当者の打合せを実施。最後に静岡県地域枠学生5名と本学職員を交えた懇談会では、学生の希望診療科の確認などが行われました。

2018年度オープンキャンパス開催

医学部

8月4日(土)9時50分から、2018年度医学部オープンキャンパスが開催され、多くの受験生や保護者が訪れました。

9時50分からプログラム案内の後、松田公志副学長の挨拶、カリキュラム説明、キャンパスライフ説明、入試概要説明が行われました。模擬講義では「その薬が効く

しくみを説明していただけますか?」と題して、薬理学講座中邨智之教授が講義。毎年好評の在学生トークイベントでは現役医学部生2名が受験勉強の方法、学生生活について発表。満席となった会場で参加者は学生の生の声に聞き入っていました。学生食堂では実際の学食が提供されるとあって開店と同時に行列ができ、参加者はキャンパスライフをイメージしながら食事と会話を楽しんでいるようでした。

シミュレーションセンターではBLS体験コーナーなどが設けられ、学生や職員の説明を聞きながら体験に取り組む姿が見られました。

そして予約で満員となった「病院見学」では、附属病院の臨床検査部や中央手術部、ドクターカー、健康科学センター、放射線部を見学。通常入ることのできないエリアも見学できる機会に、参加者から質問が出るなど盛り上がりを見せました。



満席となった在学生トークイベント



挨拶を行う松田公志副学長



シミュレーションセンターでの体験の様子



学生食堂で食事を楽しむ参加者

看護学部

7月28日(土)9時50分から、2018年度看護学部オープンキャンパスが開催されました。学部開設後初の開催となった6月に続き、多くの受験生や保護者が訪れました。

9時50分からプログラム案内の後、看護学部片田範子学部長の挨拶、カリキュラム説明、入試概要説明、キャンパスライフ説明が行われました。その後、11時30分からは「在学生と教員の座談会」を開催。受験勉強や学生生活などについて学生が率直に語る内容に、集まった受験生たちは聞き入っていました。模擬講義では「産む力・生まれる力」と題して、酒井ひろ子教授が講義。また模擬体験コーナーでは、学内演習で使用する高機能シミュレーターや赤ちゃんの沐浴体験ブースが設けられました。さらに個別相談会では、入試などについて教員に相談できる受験相談ブースや学納金・奨学金相談ブースに加え、在学生に直接話ができる学生相談ブースが設置され、学生生活や、受験生時代に実践した勉強法などに

ついて、熱心に相談する様子が見られました。

そして予約で満員となった人気プログラム「病院見学」では、附属病院の病棟や中央手術部、高度救命救急センターを見学。通常入ることのできないエリアも見学できる機会に、参加者は興味津々の様子でした。



学部長挨拶で来場者に語り掛ける片田学部長



看護学部棟での高機能シミュレーター体験



シミュレーションセンター(医学部棟)での体験



病院見学で説明する看護師

関西5医科大学合同研究医養成コースコンソーシアム合宿

9月8日(土)・9日(日)の2日間、ホテルクラシア大阪ベイ(大阪市住之江区)において「研究医養成コースコンソーシアム合宿」が1泊2日で開催され、コンソーシアムに参加している本学、大阪医科大学、兵庫医科大学、奈良県立医科大学、神戸大学医学部の学生・教職員合わせて70名余りが参加しました。

大学、学年の枠を越えて、初日はポスターセッション、二日目にはグループワークを実施。参加教員による講演では、学生から研究者顔負けの質問も飛び出し、熱心に取り組む姿が見られました。年々、学生の意欲や研究活

動も高まりを見せており、例年以上に有意義な二日間となりました。



参加者集合写真

山中伸弥客員教授の講義実施

6月26日(火) 15時40分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、山中伸弥客員教授(京都大学iPS細胞研究所所長)による特別講義が行われました。講義は本学医学部・看護学部の1学年に向け「iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」と題して行われ、集まった学生や教職員が熱心に聴講しました。

また山中客員教授は、今年4月に新設されたiPS・幹細胞再生医学講座を訪問し講座員を激励。その際、本学の研究医養成コースを志望している学生らとも顔を合わせました。山中客員教授と直接話す機会を得た学生たちは大いに刺激を受け、今後研究医となるモチベーションをさらに高めていました。



山中客員教授(前列中央左)、友田幸一学長(前列左)、講座メンバーと研究医志望の学生

大学院選択必修コースリトリート合宿

8月31日(金)・9月1日(土)、ホテルクラシア大阪ベイ(大阪市住之江区)において大学院選択必修コースリトリート合宿が1泊2日で開催され、大学院医学研究科の大学院生と教員あわせて計112名が参加しました。3、4学年による研究中間発表では、今年度から新たな試みとして4つの選択必修コース(細胞の増殖と分化コース、体の高次機能コース、形態形成と老化コース、社会と健康コース)から優秀者を1名ずつ選出し、懇親会で表彰しました。2日目には、表彰された優秀者らが改めて研究内容を全員の前で発表し、受講者は熱心に聞き入っていました。教員による講義では、参加者から「他分野の講演を聴けて興味深かった」などのコメントが寄せられ、好評のうちに終了しました。

【研究中間発表優秀者】

細胞の増殖と分化コース	3学年・和田 健作さん
体の高次機能コース	3学年・BUI VAN DANさん
形態形成と老化コース	3学年・中村 嶺さん
社会と健康コース	3学年・日高 なぎささん



参加者集合写真

解剖体慰霊碑供養挙行

9月21日(金) 11時から臨濟宗建仁寺派大本山建仁寺の塔頭正伝永源院(京都市東山区)において、友田幸一学長、附属病院澤田敏病院長はじめ教職員が参列し、2018年度解剖体慰霊碑供養が営まれました。これは、自らの遺志と無条件・無報酬の篤志をもって、医学の発展のために身体を提供された御霊を供養する儀式です。僧侶による読経の声が響く中、参列者は感謝と哀悼の意を込めてご冥福をお祈りしました。



慰霊碑の前で読経を捧げるご住職と参列者

学生からの教育評価に基づく教員の表彰式

9月11日(火) 15時40分から枚方学舎医学部棟4階中会議室において「平成29年度学生からの教育評価に基づく教員の表彰式」が行われました。これは本学教員の教育活動を奨励し、その資質の向上を図ることを目的とするもの。学生による授業評価アンケートの結果に基づき高い評価を得た教員もしくは科目を「関西医科大学教育奨励賞」として表彰しています。この日の表彰式では、平成29年度表彰の対象となった教員に友田幸一学長から表彰状が手渡されました。



表彰を受けた教員ら

受賞者 受賞科目一覧

▶ 教育奨励賞

● 1・2・3学年

教養・基礎社会系科目部門

1位	生物・分子生物学実験 (1学年)
2位	解剖学 (2) (2学年)
3位	微生物学 (2学年)

教員部門

1位	丸山 正人 講師 (解剖学2)
2位	加瀬 政彦 講師 (解剖学2)
3位	三島 伸介 助教 (医動物学)
4位	上野 孝治 助教 (微生物学)
5位	小池 太郎 助教 (解剖学1)

● 3・4学年

臓器別系統別コース部門

1位	病理診断学コース (4学年)
2位	免疫・膠原病・アレルギーコース (4学年)
3位	救急・中毒コース (4学年)

● 5学年

臨床実習科目部門

1位	臨床病理学
2位	腎泌尿器外科学
3位	精神神経科学

講義シリーズ部門(大学院総合講義)

	講 師 名	表彰対象
1位	藤澤 順一 教授 (微生物学)	バイオハザード講習会
2位	高橋 寛二 教授 (眼科学)	図書館利用 / 文献検索講習会
3位	中邨 智之 教授 (薬理学)	申請書の書き方、プレゼンテーションの仕方

研究技術シリーズ部門

	講 師 名	表彰対象
1位	片野 泰代 准教授 (医化学)	日常で役立つ遺伝子データベースについて
2位	木梨 達雄 教授 (分子遺伝学部門)	遺伝子改変動物の作製法 (基礎編)
3位	葛 幸治 教授 (臨床病理学)	臨床検体からの遺伝子研究

※講座名および職位は平成29年度当時

大学院学位記授与式

9月25日(火) 15時30分から枚方学舎医学部棟4階中会議室において、友田幸一学長をはじめ松田公志副学長、藤澤順一大学院医学研究科教務部長らが列席し、「平成30年度9月学位記授与式」が挙行されました。新たに誕生した医学博士11名のうち、当日出席した10名に友田学長から学位記が授与されました。その後の学長告辞では学位取得者の努力に対するねぎらいの言葉が述べられ「科学の歴史に名を遺したという自覚を持ち、更なる研究の向上に努め、後進にも研究の魅力を伝えてほしい」とのエールが贈られました。



授与された医学博士学位記を手にする学位取得者と列席者

バーモント大学からWong准教授らが来日

9月10日(月)、本学と学術交流協定を締結しているバーモント大学(アメリカ)からCheung Wong准教授と木田正俊教授らが来日し、枚方キャンパスを訪れました。この日は14時30分から友田幸一学長を表敬訪問し、産科学・婦人科学講座岡田英孝教授や国際交流センター鈴鹿有子センター長(学長特命教授)らと交流を深めた後、岡田教授の案内で附属病院を見学。産婦人科病棟や生殖医療センター、NICUなどを回りました。

その後Wong准教授は、17時から医学部棟4階中会議室において「Management of Advanced Staged Ovarian Cancer Then and Now」と題して大学院講義を開講し、卵巣がんについて治療法の歴史を紐解きながら最新の知見を解説。出席した本学大学院医学研究科の学生や産科

学・婦人科学講座所属の教員は、熱心に耳を傾けました。また、講義の最後には友田学長が挨拶に立ち、Wong准教授への謝辞を述べました。



友田学長(右から3人目)と記念撮影を行うWong准教授(同4人目)

チュービンゲン大学留学生フェアウェルパーティー開催

9月12日(水) 18時から、枚方学舎医学部棟4階カフェテリアにおいて、本学と学術交流協定を結ぶチュービンゲン大学(ドイツ)から留学していたRonja Lerchさん、Philipp Dignusさんのフェアウェルパーティーが開催されました。

8月半ばの来学後、Lerchさんは神経内科と精神神経科で、Dignusさんは外科で、それぞれ臨床実習を履修。パーティーには受け入れ講座の教員や学生、留学生ら39名が集まり、国際交流センター鈴鹿有子センター長の開会挨拶および乾杯で幕を開けました。

2人を囲んでしばらく歓談した後、Lerchさん、Dignusさんによるプレゼンテーションが行われ、チュービンゲン大学の概要や、日本とドイツの医学教育制度

の違いなどが紹介されました。

最後に鈴鹿センター長から、英語と日本語それぞれで記された修了証が2名に授与され、閉会挨拶の後、パーティーは幕を閉じました。



学生からの質問に答えるDignusさん(左)とLerchさん

若手研究者特集

様々な研究活動とその成果が学内外から表彰され、躍動する本学の若手研究者たち。その活躍の一端をご紹介します。

※記事企画時点で40歳以下で、一定の研究成果を持つ研究者の先生方にインタビューする連載企画です。

“生命のからくり”への探求心が原点です。

—研究者を志したきっかけを教えてください。

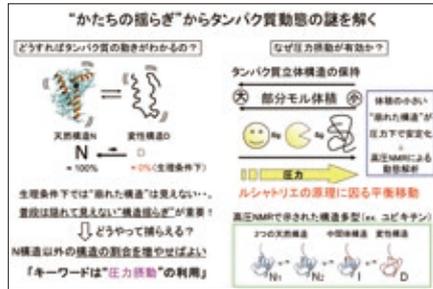
大学の卒業研究を通じて、種々の生命現象が、絶妙なバランスで設計されたタンパク質分子の動的な構造に基づき成り立っていることを知りました。そこで感じた「生命のからくり」をより深く学びたい」という探求心から研究者の道を志しました。

—科研費を獲得されている「細菌芽胞の圧力殺菌機構解明に向けた高圧NMRによる分子論的アプローチ」とはどのような研究でしょうか。

しばしば集団食中毒や院内感染症を引き起こす細菌芽胞は数十分の湿熱滅菌で不活性化できますが、どの様な過程を経て増殖能を失うのか、いわゆる殺菌のメカニズムは良く分かっていません。その要因として、芽胞の外殻構造が非常に複雑であること、物理的な損傷をリアルタイムに且つ分子レベルで評価する方法が存在しなかったことが挙げられます。

私は芽胞の外殻構造がタンパク質の集合体である点に着目し、高圧NMR法を応用することでストレス刺激(圧力処理)に対する*B.subtilis*芽胞(モデル系)の分子応答を調べました。高圧NMR法による成分変化のリアルタイム観測とSEMによる形態

観察の結果、加圧処理に伴う代謝物の多段階漏出と芽胞外殻構造の不均一な損傷が認められ、ブラックボックスのままである芽胞不活性化の分子機構を探る上で基軸となる方法を確立できました。



—高圧NMR法とはどういった測定法でしょうか。

高圧NMR法は、原子レベルで分子構造変化を解析できる核磁気共鳴(NMR)と、ルシャトリエの原理に基づき化学平衡を移動させる圧力撓動を組み合わせた独自の分析技術であり、圧力下でタンパク質の“隠れたかたち(構造多型)”を分光学的に可視化することができます。タンパク質に元来デザインされた“かたちと動き”(構造揺らぎ)は個々別々にユニークな特徴を有しており、その解明はタンパク質の実像



医化学講座(旧化学教室)
前野 寛大 助教

- 主な受賞・競争的研究費採択歴
- ・2007年 日本核磁気共鳴学会 若手研究者渡航費助成
- ・2010年 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究(B)
- ・2015年 第59回香料・テルペン及び精油化学に関する討論会 ベストプレゼンテーション賞
- ・2017年 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究(B)

を理解する上で重要となります。

—後輩研究者にメッセージをお願いします。

専門分野以外にも学びの目を意識的に向けることで、常識に捉われない柔軟な発想や感覚を育てて欲しいです。そして未知への挑戦を恐れず、高い志を持って新しい道を切り開いていってください。

超音波ガイド下末梢神経ブロックの新手法を開発

—先生の研究テーマについて教えてください。

超音波ガイド下の末梢神経ブロックについて研究しています。術中、術後の鎮痛をもたらすことができる末梢神経ブロックは、ここ10年程度盛んに研究されています。神経ブロックの施術では、針を観察しやすく描出しやすいことが重要ですが、どのような体位でどの箇所超音波を当てるかによって見えやすさが変わってきます。また、ブロックの仕方によって、術後の回復が早い、もしくは痛みが少ないなど、患者さんの負担を軽減できる可能性もあります。

従来からある「坐骨神経ブロック近位側方アプローチ」は、仰臥位の患者さんの大腿外側から針を進めて坐骨神経に到達する方法ですが、この方法は技術的難度が高くあまり使用されていませんでした。そこで、この方法に超音波ガイドを加えることで神経の同定や運針を容易にできると考え、新たに「超音波ガイド下近位側方アプローチ」を開発し、有用性を無作為比較試験と解剖用死体研究で評価しまし

た。閉鎖神経ブロックに関しても、超音波ガイド下で針を視認しやすく、かつ1回の注射で確実に効く手法を開発し、前向き観察研究と解剖用死体研究で検証しました。また、婦人科手術で、体幹部の持続末梢神経ブロックが術後の鎮痛薬使用を減らすことを、無作為比較試験で明らかにしました。末梢神経ブロックではいかに針先を描出するか、そのためにどのように超音波プローブを配置するかが重要ですが、自宅に“マイ超音波装置”を購入して、見え方を日々研究しています。

—末梢神経ブロックの研究に取り組むようになったきっかけを教えてください。

以前在籍していた名古屋大学医学部附属病院で、3か月で400例程度の神経ブロック施術を集中的に経験しました。身に付けた技術を臨床に役立てたいと思ったのがきっかけです。

—どのような気持ちで研究に取り組んでいますか。

日々の臨床での疑問を大切に、それを解消しようとするのが大切です。臨床で



麻酔科学講座
吉田 敬之 助教

- 主な受賞・競争的研究費採択歴
- ・2015年 「第20回日本麻酔科学会若手奨励賞(臨床の部)」日本麻酔科学会
- ・2015年 「ESRA BEST E-POSTER COMPETITION THIRD PLACE (34th Annual ESRA Congress 2015)」The European Society of Regional Anaesthesia and Pain Therapy
- ・2016年 「日本臨床麻酔学会若手奨励賞」日本臨床麻酔学会
- ・2017年 「第10回(平成29年度)和田喜代子賞(優秀業績賞)」関西医科大学加多乃会
- ・2017年 日本学術振興会 科学研究費助成事業若手研究(B)

感じた疑問に対して仮説を立て、それを検証することで臨床業務にもより張り合いがでますし、新たな発見や気づきも得られると考えています。

看護学部学生が地域福祉活動に参加

本学は、枚方市社会福祉協議会、校区福祉委員会を窓口として「いきいき・わくわくプログラム」を開始しました。当プログラムは、本学看護学部1年生100名全員に、地域福祉やそれらに関連した活動に参加する機会を提供するもので、「生活」に視点を置いて地域に学ぶカリキュラムを重視する本学看護学部の方針と、社会福祉協議会の取り組みが合致し、実現に至りました。

学生は20グループに分かれ、事前学習や地域訪問を経て、「高齢者向けサロン」や「子育てサロン」、「子供いきいき広場」、「まちづくり研修」などの、各種地域活動に参加しています。

学生は活動を振り返り「将来看護師として働くうえで、病院内だけでなく患者さんの生活などの背景も意識することが大切と感じた」

「普段接することのない高齢者や幼児などと話す機会を得られ、貴重な経験ができた」などと述べていました。



地域活動で看護学部学生が制作した折り紙作品

第10回健康沿線®トークカフェを開催

8月18日(土) 15時から枚方学舎医学部棟2階第2講義室において、『関西医科大学第10回健康沿線®トークカフェ』が、「元気な高齢者になるために ～運動機能維持のために必要なリハビリテーションの現状と課題・展望～」をテーマに開催されました。これは、北河内医療圏で地域の健康を支えている本学が、企業にも元気になってもらうために情報を交換し、新しい取り組みを生み出す場の提供を目的として開催されているイベントです。

友田幸一学長の挨拶で始まった今回は、健康科学教室木村穰教授が「健康長寿に必要な身体機能と脳機能」を、総合医療センターリハビリテーション科菅俊光病院教授と関医デイケアセンター・香里脇田正徳理学療法士が「大学としての介護・福祉への取り組みと課題・展望」を、

医療法人社団小室整形外科医院小室元院長が「在宅医療における運動器治療の可能性」を、それぞれ講演。最後に産学連携知的財産統括室塩島一朗室長が閉会の挨拶を述べ、17時45分からは医学部棟4階カフェテリアに会場を移して、意見交換会が開催されました。



開会の挨拶を述べる友田学長

平成29年度分学長賞授与式を挙行政

8月20日(月)正午から枚方学舎医学部棟4階中会議室において、「平成29年度分学長賞授与式」が執り行われました。今回は、第69回西日本医科学生総合体育大会(以下「西医体」)において女子100m背泳ぎで優勝した水泳部4学年天野晶望さん、同じく第70回西医体(冬季大会)において女子総合2位に入賞した競技スキー部女子チーム(5学年田中里奈さん、4学年八田日菜子さん、大澤加奈子さん、3学年鈴木唯加さん、2学年平林碧さん)、ひらかた魅力発信コンテストで入選を果たした写真部5学年濱田諒さんに、友田幸一学長から直接表彰状と副賞が贈られました。

その後挨拶に立った友田学長は、日頃の勉学と並行して積み重ねた受賞者の努力と榮譽を称え、「この結果に

満足せずこれからも文武両道に励んで欲しい」と激励しました。(学年は受賞当時)



記念写真に収まる友田学長(中央)と受賞者ら

病 院 DMAT出動・DMAT訓練

台風被害を受け関西国際空港などで本学 DMAT2 隊が活動

9月4日(火)に近畿地方を通過した台風21号の被害を受け、9月5日(水)、大阪府から本学に対しDMAT(災害派遣医療チーム)派遣要請が出され、附属病院と総合医療センターから各1隊のDMATが泉州医療圏へ派遣されました。

両隊は、活動拠点本部のあるりんくう総合医療センター(泉佐野市)に参集したのち、附属病院DMATは連絡橋の破損により帰宅困難者が発生していた関西国際空港に入り、応急救護所を立ち上げ体調不良者の発生に備えました。また総合医療センターDMATは、停電などの被害が大きい泉州医療圏の病院を回り、被害状況や避難

の必要性などを確認した後、関西国際空港に入り応急救護所の運営を行いました。



関西国際空港にて活動方針のミーティングを行うDMAT隊員

政府主催「平成30年度大規模地震時医療活動訓練」に本学 DMAT が参加

8月4日(土)、政府主催「平成30年度大規模地震時医療活動訓練」に、附属病院と総合医療センターのDMATそれぞれ各1隊が参加しました。

今回の訓練は、南海トラフ地震が発生し四国や九州が被災したとの想定で実施され、両病院DMATはドクターカーでそれぞれの病院を出発し、香川県の高松自動車道豊浜サービスエリア(SA)に設けられたDMAT活動拠点本部に参集。本部の指示を受け、それぞれ高知県内の災害拠点病院に設けられた活動拠点本部へ向かった後、附属病院DMATは高知県内の病院の情報収集や病院支援の活動にあたりました。また総合医療センターDMATは、高知県内の精神科と心療内科を標榜する病

院で、DPAT(災害派遣精神医療チーム)と連携し病院支援の活動にあたりました。

昨今、大規模災害が頻発しているため、参加したDMAT隊員は災害対応に対する心構えを新たにしました。



豊浜SAに設置されたDMAT活動拠点本部

附属病院 ハイブリッド手術室オープン

7月2日(月)附属病院4階手術部にハイブリッド手術室がオープンしました。ハイブリッド手術室には、最新の血管撮影装置を導入し、これまで部屋の移動が必要で迅速な対応が難しかった“手術”と“造影”が一つの手術室で行えるようになりました。

ハイブリッド手術室のオープンによって患者さんに投与する造影剤量や被ばく線量の低減、院内感染の予防、医療従事者の身体的負担や感染リスクの軽減を実現しています。

また、オープンに合わせ同日13時から関係者向けの内覧会を実施。今後は主に心臓血管外科・血管外科(ハートセンター)において活用していく予定です。



ハイブリッド手術室に設置された血管撮影装置と手術台

附属病院 先端がん医療セミナー

7月6日(金)18時から附属病院13階講堂において先端がん医療セミナーが行われました。

これは医療従事者を対象とした、がん医療に関する先端的な勉強会で、今年2月に引き続き2回目の開催となり、外部からの参加者を含む64名が参加しました。今回は高精度放射線治療をテーマに、附属病院放射線治療科中村聡明准教授、大阪重粒子線センター溝江純悦センター長が講演。

中村准教授の講演では「放射線とは何か」や放射線治療の変遷、各疾患に対するIMRT(強度変調放射線治療)の効果などを紹介。

溝江センター長からは、粒子線治療とX線との違いや各疾患への適応、日本と海外の粒子線治療の現状についての講演が行われました。講演終了後、参加者から放射

線治療後のケアについて質問があり、「放射線をかけただけで終わるのではなく、センターに外科医を招聘して治療環境を整え、患者さんとの対話を行いながら対応している」と回答しました。



粒子線治療について講演を行う溝江センター長

附属病院 附属病院で「一日看護体験」

7月27日(金)9時から附属病院において、高校生を対象に「一日看護体験」が開催されました。これは看護に対する理解を深めるとともに、看護の明るいイメージづくりを図り、将来の進路選択の参考としてもらうために行っている大阪府の事業。この日は、大阪国際滝井高等学校から32名が参加しました。

参加者は、オリエンテーションや歓迎のあいさつを受けた後DVDを視聴し、各病棟に分かれて足浴の援助などの看護業務を経験。患者さんと直接触れ合う体験に緊張の面持ちを浮かべながらも、現場で働く看護師らについてまわり、指示通りに手を動かしていました。また、各病棟の師長・副師長との懇親会では体験で感じたことや

将来への思いをしっかりとした言葉で発表していました。



入院患者のケアを行う高校生(写真左)

附属病院 こども病棟で「夏祭り」

8月22日(水)18時30分から附属病院5階こども病棟エントランス及びプレイコートにおいて、「子ども病棟夏祭り」が開催され、入院中の子どもたちやその保護者らが参加しました。

この夏祭りは、単調な入院生活にメリハリをつけることでストレス発散の場となること、患児とその家族同士の交流の機会になることなどから、毎年開催されているものです。一般社団法人OSAKAあかるクラブ(サマーサンタ)からはマラソン開催によって集めた募金で購入したおもちゃや絵本などが子どもたちにプレゼントされました。当日は天候に恵まれ、プレイコートでは水鉄砲射的やスーパーボールすくいなどが、病棟内では似顔絵やくじ引きが開催されました。

子どもたちは親や浴衣姿の看護師と一緒に輪投げをしたり、似顔絵を描いてもらったりしながら夏祭りを楽しみました。



プレイコートで夏祭りを楽しむ参加者

附属病院 “心不全”をテーマに市民公開講座を開催

9月15日(土)14時から、附属病院13階講堂において「もっと知ってほしい！心不全のこと ～原因、予防、治療法について～」をテーマに附属病院市民公開講座が開催され、市民ら103名が参加しました。附属病院澤田敏病院長が開会の挨拶を述べた後、循環器内科諏訪恵信助教が「『心不全』てな～に？ 心不全の原因と個別管理」を、ハートセンター川副浩平センター長が「手術で治る心不全」を、看護部大北亜樹慢性心不全看護認定看護師が「心不全外来ってどんなところ？」を、薬剤部田中雅幸薬物療法指導薬剤師が「薬の飲み忘れて困っていませんか？ ～心不全治療薬と上手につき合うコツ～」を、栄養管理部吉内佐和子主任が「心不全と食事 ～セルフケアと食べることの大切さ～」を、それぞれ講演。最後に

看護部稲井久美子副部長が閉会の挨拶を述べ、盛会裏に終了しました。



開会の挨拶を述べる澤田病院長

香里病院 サマーコンサート開催

合唱する香里ヌヴェール学院の生徒たちと聴衆

7月21日(土)14時30分から香里病院2階エントランスホールにおいて、香里ヌヴェール学院の中学・高校生によるサマーコンサートが開催されました。

ハンドベルでの演奏は涼しげな音色を、総勢23名に及ぶ合唱はとてもきれいなハーモニーを、それぞれ奏でました。また、この日は往年の名曲「上を向いて歩こう」や、「朝ドラメドレー」などが披露され、多様な年齢の方々が楽しんでいました。

くずは病院 関医デイケアセンター・くずはで夏祭り開催

7月20日(金)、21日(土)のいずれも13時から、くずは病院4階通所リハビリテーション(関医デイケアセンター・くずは)において、毎年恒例の夏祭りが開催されました。

懐かしさを呼び起こす「お祭り」ソングがBGMとして流れる中、射的、くじ引き、輪投げ、ストラックアウトなど、スタッフお手製の手作りゲームコーナーや、手作りカラフル綿菓子、チョコバナナなどのおやつが提供され、利用者さん、スタッフともにお祭りを満喫しました。

また、楽しみながら体を動かすことで、利用者さんは心にも体にも良いリハビリテーション効果を得られたようでした。



射的を楽しむ利用者さんとスタッフ



球技大会を開催

9月21日(金)9時15分から牧野キャンパス体育館において、附属看護専門学校球技大会が開催されました。本大会は附属看護専門学校学校祭「Power of smile～羽ばたけ白衣の天使たち～」の一環として開催したもので、2年生と1年生がクラスごとに2チームに分かれ3種目の競技を行いました。

開会式の後、ラジオ体操で体をほぐした学生は、ドッジボール・バレーボール・バスケットボールで白熱した戦いを繰り広げ、各チームとも熱が入り、得点が入るたびに大きな歓声を上げていました。全ての競技終了後に閉会式が行われ、牛嶋百合子教務部長から熱戦を繰り広げた学生にねぎらいの言葉が贈られました。



バスケットボールで熱戦を繰り広げる学生たち

平成30年度学校祭開催

9月29日(土)9時から12時まで、牧野キャンパスにおいて平成30年度附属看護専門学校学校祭が開催されました。今年度は「Power of smile～羽ばたけ白衣の天使たち～」をテーマに、教職員ならびに近隣の保育園・老人会などから260名が参加して行われました。

第1部は、体育館内で園児を対象にスーパーボールすくいなど7種類のブースを、第1実習室では血圧測定など3種類のブースを出展し、食堂ではフリーマーケットを実施。参加者はそれぞれのブースで楽しんでいました。

第2部は学生が38グループにわかれてクイズラリーを実施。結果発表の後に閉会式が行われ、楠本健司学校長の挨拶があり閉会しました。



参加した老人会
に向けて体操を
教える学生たち



ボウリング
ブースの
学生たち



卒後臨床研修センター

レジナビフェア 2018大阪 ～臨床研修プログラム～

7月1日(日)10時からインテックス大阪(大阪市住之江区)1・2号館において、「レジナビフェア 2018 大阪 ～臨床研修プログラム～」が開催され、本学もブースを開設しました。当日は約1,850名の来場者があり、本学のブースを訪れた111名に、本学の研修医7名が対応。終始和やかな雰囲気では話が進み、盛会裏に終わりました。



本学ブースの様子

関西医大 × りそな銀行 @ 枚方 T-SITE

※講演テーマ・講師は変更になる可能性があります。

**医療健康
セミナー** 無料
午後2時～午後3時

【第13回】 11月17日(土)「インフルエンザを防ごう 医学的に正しい予防法」
附属病院 総合診療科 西山 順滋 診療科長

【第14回】 12月15日(土)「家族で看取る 自宅で看取る、最後の過ごし方」
看護学部 在宅看護学領域 李 錦純 准教授、武 ユカリ 講師、山本 大祐 助教

- 会場：枚方 T-SITE7 階りそな銀行枚方支店 りそなホール(京阪電車枚方市駅南口 直結徒歩約1分)
事前申込優先(当日でも空席があれば参加できます)
- お申込み方法：右記QRコード、または下記URLからお申込みページへアクセス
- お申込みページ：<https://goo.gl/forms/wJNsvRfZaEIFQpS53>



表紙写真紹介

「秋郊(しゅうこう)」
撮影：上田憲一 医学部6年

撮影者コメント
秋の河川敷より、紅葉と陽光でオータムカラーに染まる病院と学舎を撮りました。空のグラデーションも綺麗です。

学会主催報告

2018年7月～9月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

第7回栄養管理指導者協議会学術集会

■会期 2018年9月23日～9月24日 ■場所 神戸国際会議場 メインホール ■延動員数 245名

メインテーマ 「学会は議論の場」

栄養が必要ではない人は皆無です。しかしながら、栄養についての医療従事者の知識不足は深刻で不適切な栄養管理が多くみられます。栄養が不足すると筋肉量の減少、創傷治癒の遅延、免疫能の低下、臓器障害がおきてしまいます。今回は245名の参加者のもとNST、在宅栄養管理、栄養評価、臨床研究、ポスターセッションで活発な議論が行われました。いつも私とこの回に参加していた故 中井宏治先生にもいい学会だったと報告できました。

【代表世話人／関西医科大学総合医療センター 肝胆膵外科 科長・病院教授、栄養管理部 部長 北出 浩章】

学会賞受賞および助成金採択情報

2018年7月～9月の学会賞受賞および助成金採択者を紹介します。

最優秀奨励賞

小児科学講座 辻 章志 准教授

■テーマ 一日塩分摂取量が小児の夜尿症の治療反応性に及ぼす影響

■授与学会 第29回日本夜尿症学会学術集会



学会奨励賞

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 河内 理咲 助教

■テーマ OSAS患者における病勢マーカーとしての鼻腔NO

■授与学会 第31回 日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会



第50回日本臨床分子形態学会奨励賞

形成外科学講座 覚道 奈津子 講師

■テーマ ヒト脂肪幹細胞と多血小板血漿・増殖因子を用いた再生医療研究

■授与学会 第50回日本臨床分子形態学会総会・学術集会



奨励論文賞

看護学部 広域看護分野 地域看護学領域

中原 洋子 助教

■テーマ 支援が必要な母親への妊娠中からの保健師の支援-妊娠届出時等の保健師の判断に焦点を当てて-

■授与学会 日本地域看護学会第21回学術集会



H30年度内視鏡医学研究医海外派遣助成

腎泌尿器外科学講座 井上 貴昭 講師

■テーマ Education: Engineering and Smart models

■授与学会 公益財団法人 内視鏡医学研究振興財団



平成30年度 在宅医療研究への助成

看護学部 広域看護分野 在宅看護領域

山本 大祐 助教

■テーマ 中山間地域における病院での看取りを選択した訪問看護利用者と家族の支援ニーズ

■授与団体 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団



第20回AHC論文賞

解剖学第一講座 小池 太郎 助教

■テーマ A Device for Ribbon Collection for Array Tomography with Scanning Electron Microscopy.
(3次元電顕用試料作製補助装置の考案と開発を紹介した論文)

■授与学会 第59回日本組織細胞化学学会



第9回日本泌尿器内視鏡学会学会賞

高安 健太 大学院生

■テーマ Analysis of the posture pattern during robotic simulator tasks using an optical motion capture system

■授与学会 第32回日本泌尿器内視鏡学会総会



奨励賞

小児科学講座 赤川 翔平 助教

■テーマ 低浸透圧尿を認めない夜尿症患者に対する抗利尿ホルモン製剤の有効性

■授与学会 第29回日本夜尿症学会学術集会



日本尿路結石症学会第21回奨励賞 臨床研究部門

腎泌尿器外科学講座 吉田 崇 社会人大学院生

■テーマ 10/12以下の尿管アクセスシースと術中腎盂内圧との関連性の評価：ex vivo study

■授与学会 日本尿路結石症学会第28回学術集会



優秀演題賞

小児科学講座 木野 仁郎 助教

■テーマ 超早産・超低出生体重児に関連した巣状分節性糸球体硬化症の一例

■授与学会 第48回日本腎臓学会西部学術大会





教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。

(主に2018年7月1日～9月30日 ※判明のみ)

救急医学講座 中村 文子 助教・ 島津 遥香 助教	テレビ東京 「日曜ビッグバラエティ[救命救急 リアル現場3]」 (7月15日)	全国各地で救命救急医の現場に密着する企画が放送され、附属病院救急医学科における中村助教、島津助教らの活躍が紹介されました。
iPS・幹細胞再生医学講座 蘭田 精昭 客員教授	大学ジャーナルオンライン (7月18日更新)	蘭田客員教授らの研究チームが、世界で初めてヒト臍帯血由来造血幹細胞の純化に成功したことが紹介されました。
内科学第三講座 岡崎 和一 教授	NHKEテレ「きょうの健康」 (8月6日)	“すい臓の病”をテーマとした回で「急性すい炎」が取り上げられ、岡崎教授が出演。症状や原因、治療法などについて解説しました。
内科学第三講座 岡崎 和一 教授	NHKEテレ「きょうの健康」 (8月7日)	急性すい炎が取り上げられた前日に続いて「慢性すい炎」が特集され、岡崎教授が症状や原因、治療法などについて解説し、早期治療の必要性を訴えました。
内科学第三講座 岡崎 和一 教授	読売新聞 朝刊 (8月9日)	京都大学千葉勉名誉教授らのチームが自己免疫性膵炎発症の仕組みを解明したことを報じる記事で、岡崎教授がその研究の意義や将来の創薬に向けて期待すると述べたコメントが掲載されました。
看護学部 三木 明子 教授	看護rool (8月21日更新)	看護師が患者さんやその家族から受ける暴力・ハラスメント被害を取り上げた記事で、三木教授の解説インタビューが掲載されました。
外科学講座 海堀 昌樹 診療教授	週刊現代2018年9月8日号 (8月27日)	特集「60歳を超えたら「受けてはいけない」手術、70歳を超えたら「やってはいけない」手術」の中で、外科学講座海堀昌樹診療教授のコメントが掲載されました。
形成外科学講座 森本 尚樹 准教授	日経メディカル (8月29日更新)	特集「再生医療はここまで来た！」において、今年4月に医療機器として承認された機能性人工皮膚(商品名ベルナックGプラス)が取り上げられ、研究・開発に携わった森本准教授のコメントなどが掲載されました。
リハビリテーション医学講座 長谷 公隆 教授他	日本経済新聞 朝刊 (8月31日)	長谷教授らの研究チームが、株式会社テクリコと共同で開発している、認知症予防や脳機能障害に向けたリハビリシステムが紹介され、長谷教授のコメントが掲載されました。
看護学部 三木 明子 教授	m3.com (9月4日更新)	小児向け診療所における、患者さんや家族から職員への暴言・暴力・セクハラ・嫌がらせの実態に関して初めて行われた全国調査の速報値が、第28回日本外来小児科学会年次集会で報告されたことを受け、報告者である看護学部三木明子教授による考察やコメントが、調査結果と合わせて掲載されました。
外科学講座 海堀 昌樹 診療教授	日経メディカル (9月5日更新)	7月に鹿児島で開催された第73回日本消化器外科学会総会ワークショップ「集学的治療は微小転移を制御できるか?」の中で、海堀診療教授が行った報告が取り上げられました。
救急医学講座 鉾方 安行 教授	産経新聞 朝刊 (9月9日)	緊急医療体制についての特集で、救急医学講座鉾方安行教授(大阪府医師会理事)のインタビュー記事が掲載されました。
看護学部 三木 明子 教授	m3.com (9月11日更新)	小児向け診療所における、患者さんや家族から職員への暴言・暴力・セクハラ・嫌がらせの実態に関して初めて行われた全国調査に関して、三木教授が解説したコメントが掲載されました。
附属病院	朝日新聞 朝刊 (9月12日)	9月15日(土)午後2時～4時に本学附属病院で開催した市民公開講座「もっと知ってほしい!心不全のこと～原因、予防、治療法について～」の告知が掲載されました。
総合医療センター	毎日新聞 朝刊 (9月18日)	10月21日(日)10時から本学総合医療センターで開催したイベント「TAKE! ABI 2018 in KANSAI」が取り上げられました。
看護学部 三木 明子 教授	読売新聞 朝刊 (9月23日)	介護現場でのハラスメント被害や、その被害に対する厚生労働省、自治体の取り組みに関する特集記事で三木教授のコメントが掲載されました。
眼科学講座 高橋 寛二 教授	NHKEテレ「きょうの健康」 (9月26日)	“目の老化”をテーマとした回で「加齢黄斑変性」が取り上げられ、加齢黄斑変性の症状や特徴、治療法などについて、高橋教授が幅広く解説しました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨、9月の台風被害など、大きな災害が続きました。被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

先日、京都嵯峨野の大覚寺で公開された嵯峨天皇の般若心経を見てきました。今から1,200年前、大飢饉があった818年に人々の安穏を願い嵯峨天皇が写経したもので、一般に公開されるのは初めてだそうです。大覚寺によると「近年自然災害が多発しており、開封する意義を重く感じる」とのこと。豊かで穏やかな時代が訪れますように。(さ)

関西医科大学広報 Vol.43

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)

FAX 072-804-2344

http://www.kmu.ac.jp/

E-mail : kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

2018年11月30日(金)発行